

教員の労働環境の見直しについて

白石綾音 川野辺フィオナ桜子

指導者 松本穂高教諭 本田由佳教諭

要旨

学校生活を行っていく中で、教員の労働環境の見直しが必要であるように考えられた。そこで、高校生の視点で教員の労働内容の見直しや勤務時間の短縮の方法を提言しようと考えた。具体的には、教員の労働内容を洗い出し、高校生目線で分担可能なものや、削減可能なものなどに分類する。

How to improve teachers' working environment?

Ayane Shiraishi and Fiona Sakurako Kawanobe

Supervisor Hotaka Matsumoto and Yuka Honda

Abstract

In school life, the review of teachers' working environment seemed to be required. Then, we thought to make suggestions the review of teachers' environment and ways to reduce teachers' working times from the viewpoint of high school students. Specifically, we research teachers' working contents and categorize them into those that can be shared with students and those that can be reduced and so on.

1.序論

(1)はじめに

高校生として学校で生活している中で、身近な教員という仕事に興味を持った。そこで、教員の仕事、労働環境について調べ、その大変さを知った。このことから、私たちは教師の業務内容を高校生の目線で仕分け、提言し、少しでも教師の負担を改善したいと考えた。

(2)仮説

教師の業務内容には、教師が行わなくてもよいものが存在し、仕事自体をなくすことや生徒と協力して行う、外部に委託することによって、教師の負担を減らすことができるのではないかと考える。

2.本論

(1)研究方法

①アンケート

I 教師を対象としたアンケート

II 生徒を対象としたアンケート

②宮城県教育委員会への聞き取り調査

③インターネット

(2)研究結果

①アンケート

I 教師を対象としたアンケート

教師がしなくてもよいと思われる仕事

- ・会計
- ・事務作業
- ・電子機器の設定
- ・教材費等の回収、催促
- ・交通指導
- ・部活動指導
- ・報告書作成 (一部抜粋)

教師の仕事内容、労働環境についての意見

- ・年休、土日休みがとりにくい
- ・残業代を支給してほしい
- ・持ち帰り業務を減らしてほしい
- ・新しい対応は増えるが廃止される対応がない
- ・授業や面談の時間が欲しい (一部抜粋)

II 生徒を対象にしたアンケート

インターネットを使用してアンケートを実施した。

アンケートの回答者は

中学生 3 人(1.9%)

高校生 179 人(83.3%)

大学生 29 人(13.5%)

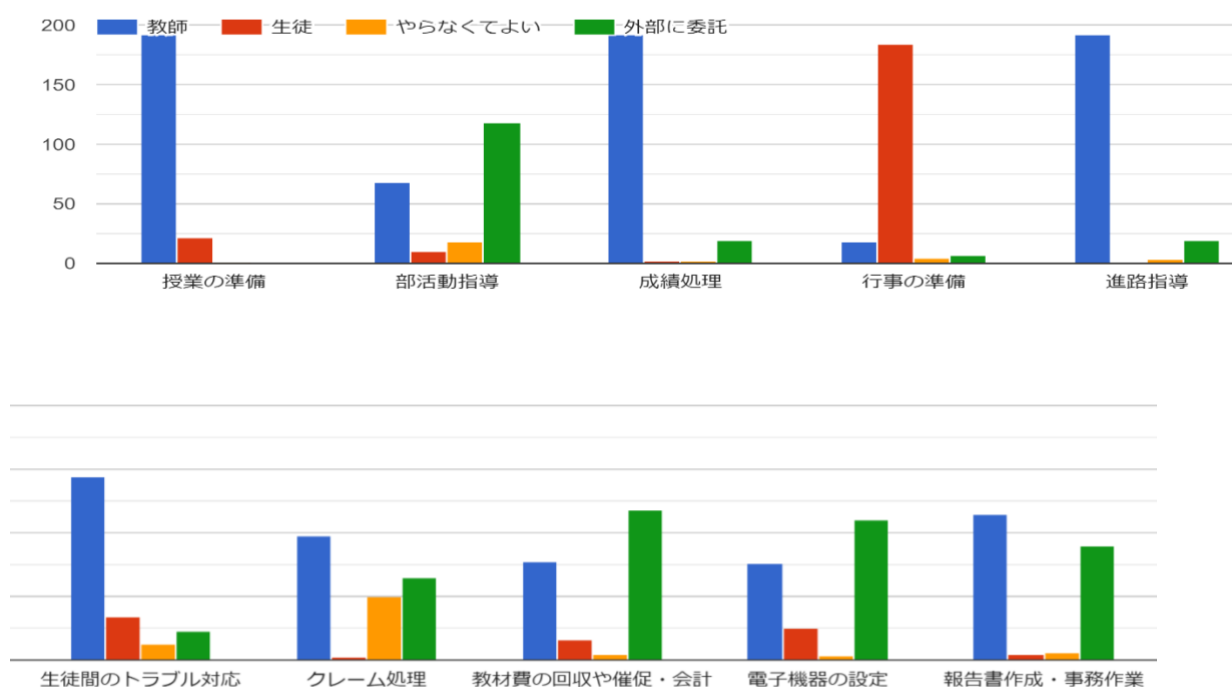
その他 4 人(1.4%) 計 215 人(100%)である。

アンケートでは、以下の 2 点に関して聞いた。

- ・教師の行う仕事内容に関して誰が行うべきか
- ・教師の行う仕事内容と労働環境についての意見

I 次の仕事は誰が行うべきと思うか

次の仕事は誰がやるべきだと思いますか？当てはまるところを選択してください。(全10問)



- ・授業の準備、進路指導、成績処理等は圧倒的に教師が行うべきであるという意見が多くみられた。
- ・行事の準備は生徒での運営が望ましいという意見が多くみられた。
- ・外部に委託すべきという意見が最も多く見られたのは、部活動指導についてだった。

II その他教師の仕事内容、労働環境について意見がありましたらお書きください

(自由記述、一部抜粋)

- ・「部活動の顧問をやりたい」という思いも教員を目指す一つの理由となっている。
→教員側に部活動指導を行うかの選択権があるシステムが出来ればよい。
- ・塾講師のように授業を行う担当の先生と生徒指導担当の先生は分けたほうがよい。
- ・教科を持たない学年主任のような立場の人が 2 人くらいいてもよいと思う。
- ・部活動の外部委託に関して、教師が素人であるような部活動は地域のスポーツクラブ等に任せ、教師が専門家になるような史学部、化学部のような部活動は教師が行うとよいと思う。
- ・生徒会がやるような事務作業を委員会に振り分けるなどして全生徒が関わられるように割り当てるのがよいと思う。
- ・以前教員になりたいと思っていたが、世間でブラックだといわれていることを知り、興味をなくした。

- ・教師の仕事内容には大量の個人情報が含まれるため、外部委託というより事務員の仕事として振り分けるとよいと思う。

②宮城県教育委員会への聞き取り調査

- ・多くの教員が残業をしている。
- ・コロナウイルスの影響で、リモートでの勤務が一般的になり、在宅で働くことができる教員が増加した。
- ・宮城県の半分以上の公立学校が、学校閉庁日を設けている。
- ・宮城県では、運動部の平均活動日数が週に 5 日である。

③インターネット

教師の仕事内容

- ・指導計画の作成や、教材研究などの授業準備
- ・テストの丸付け等の学習評価や成績処理
- ・体育祭や文化祭等の学校行事の準備、運営
- ・地域行事等への参加
- ・進路指導
- ・いじめ防止や生徒の暴力行為や非行行為への対応等

3.結論

(1)考察

■①Ⅰ、③より

- ・教師の仕事内容を挙げると、教師が行わなくてもよいと思われる仕事内容が存在していて、また、教師自身も自分たちの仕事ではないと感じている内容がある。

■②より

- ・教師の労働時間は長い一方で、コロナウイルスによる在宅勤務の増加や、働き方改革の影響で、出勤しなければいけない日数は減少している。
- ・宮城県の学校閉庁日に関しては、当初は働き方改革の成果であると考えたが、調査したところ、茨城県では、すべての公立学校が、全国では、97%以上の公立学校が学校閉庁日を設けていることが分かった。
→働き方改革の成果には地域差があり、改善すべき点がある。

■①Ⅱ i より

- ・教師が普段生徒と接している中で、教師が行うべきであると考えられている業務内容がある。
- ・直接授業や教育にかかわらない業務内容は、外部に委託したほうが良いと考えている学生が多い。
- ・行事の準備に関しては、生徒メインのものであるからであろうか、生徒の役割としてもよいという意見が多く存在する。
- ・しかしながら、現在の教師の主な業務内容の中で、なくしてもよいと考えられているものは、ほとんどない。

■①Ⅱ ii より

- ・業務内容ごとにこの仕事を行うのは誰が良いなど、大きく決めてしまうより、この先生たちはこの業務の担当、この業務は教師と生徒が協力して行うなど広く分担するのが良い。
- ・業務内容の振り分けの際に、各教師が行いたいと思っているものや、個人情報の取り扱い、教師や生徒自身の成長などを考慮しなければいけない。

(2)主張

これまでの調査結果より、教員の仕事内容には教師以外が受け持つことが可能なものが含まれていると見えて取れた。そこで私たちは、教員の仕事内容の仕分けを行うことにした。

教師	生徒	外部委託
・授業の準備 ・進路指導 ・成績処理 ・部活動指導(一部) ・生徒間のトラブル対応	・行事運営 ・会計業務(一部) ・事務作業(一部)	・部活動指導(一部) ・教材費の催促、会計業務 ・クレーム処理
		
・個人情報が多く含まれる業務 ・学習に直結する業務	・会計業務を行うような委員会の設置	・事務員の増員 ・非常勤講師の活用 ・担当教科のない学年先生の設置

■非常勤講師の雇用について

非常勤講師とは、非常勤雇用の立場で授業時間のみ出勤して授業を行う教師のことである。地域の人材や多様な専門分野の社会人を学校現場に迎え入れることにより、学校教育の多様化への対応やその活性化を図るため、教員免許を有しない非常勤講師を登用し、教科の領域の一部を担当させることができる(文部科学省 特別非常勤講師について より)。

この非常勤講師の活用によって教師の仕事を減らすことができるのではないかと考えた。非常勤講師の行える(行っている)仕事は以下のものが挙げられる。

・情報(パソコン) 講師等 ・テスト作成、採点	・伝統芸能等の講師 ・学校での授業
--	--

□非常勤講師の活用のメリット

- ・勤務時間が明確で、基本的に残業が無い
→比較的時間に余裕がある

- ・授業に専念できる
- ・専門性の高い分野の教育にたけている

□非常勤講師のデメリット

- ・任期が決まっている
- ・責任のある仕事を任せにくい
- ・専任・常勤とくらと比べ、待遇の差がある
- ・収入が不安定

□問題点

非常勤講師は専任教諭と異なり、授業に専念できるというメリットがある。しかしながら、教諭としての身分保障が無いため、責任のある仕事を積極的に任せることが難しい。

このような問題点はあるものの、ICT の知識が教師に求められ始めている現在、ICT の知識を持つような人材を非常勤講師として雇用し、常任教諭教師の仕事内容を減らせるのではないかと考えた。また、非常勤講師は常任教諭教師と同様に授業を行うことは出来るため、常任教諭教師の代わりに授業を行うことで、常任教諭教師の行う仕事を減らせると思われる。このことにより、常任教諭教師が生徒への面談等、生徒とよりコミュニケーションをとる時間が増やせるのではないだろうか。責任の伴う業務(部活動の引率等)が行えないため、部活動指導等は行えないが、会計業務や教材費の催促、回収等も非常勤講師に一任というまではいかずとも、分担することで教師にとってより働きやすい環境が作れるのではないかと考えた。

謝辞

新型コロナウイルスの影響で予定が変更になってしまったにもかかわらず、メール上で質問に答えていただくという寛大なご対応をいただいた宮城県教育委員会 教職員課 服務制度班働き方改革推進チームの担当者様、さらに、アンケートにご回答いただいた多くの教員のみな様、生徒の方々など、すべての方々にお礼を申し上げまして謝辞とさせていただきます。本当にありがとうございました。

参考文献

宮城県公式 Web サイト 2021 年 4 月 1 日

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyou-soumu/hatarakikatakaikaku.html>

文部科学省 2017 年 12 月 22 日 22 日

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/12/22/1399789_4.pdf

文部科学省 特別非常勤講師制度について 2019 年 8 月 27 日

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/151/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2019/08/27/1420580_07.pdf

文部科学省 2017 年 11 月 8 日

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/11/08/1397673_3.pdf

経済産業省 2021 年 6 月 25 日

<https://www.meti.go.jp/press/2021/06/20210625005/20210625005-1-2.pdf>

文部科学省 2020 年 12 月

https://drive.google.com/file/d/1XIO6E6MNjJM0srR0jM1BhM_R0mkiDG6X/view?usp=sharing

文部科学省 2019 年 12 月

https://www.mext.go.jp/content/20191218-mxt_zaimu-000003305_4.pdf